



車輪梅

<鹿島中学校 学校だより>

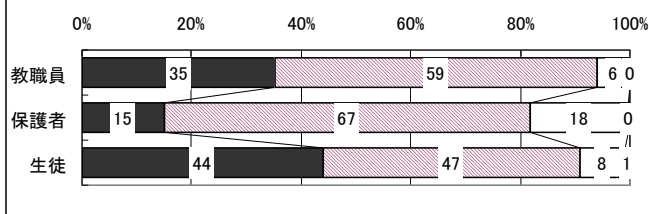
【平成30年2月号③】

寒さ厳しき折、インフルエンザにご注意を！ 《重点目標》『品格を備え、課題を持って今の自分を高めよう』

学校評価の結果より (2)

～徳育面から～

4 よいあいさつ、身だしなみ、言葉遣いを心がけている。

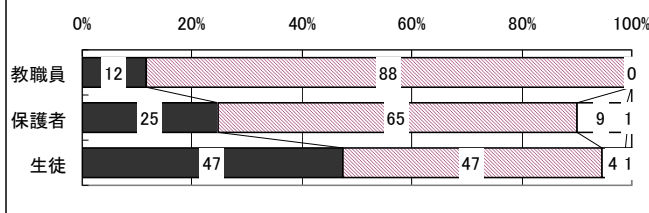


自身を振り返って反省したために、若干低くなったとも考えられる。言葉遣いも含め、この項目で取り上げている基本的生活習慣は、社会人として当たり前のことであり、また、品格向上に向け継続して改善していく必要がある。

4 よいあいさつ、身だしなみ、言葉遣いを心がけている。

地域の方からは「鹿島中生徒のあいさつはすばらしい。」「道路ですれ違う際に必ずあいさつしてくれる」「鹿島中生からあいさつをしてもらい勇気をもらった」という声を今年度、寄せられたところである。もともと鹿島中学校は「あいさつが良い学校」として、地域からも賞賛の声をいただいていた。一方、返事に関しては全校集会をはじめ機会をとらえて指導してきたこともあり、この評価項目に関して自分

5 思いやりをもって人と接するように心がけている。

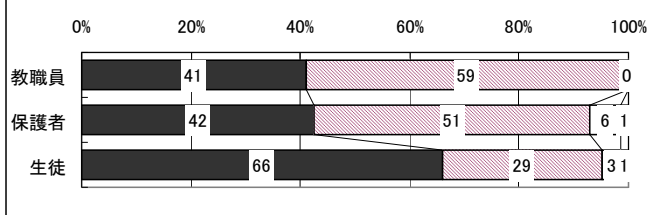


に加え、学年の実態に応じて、機会をとらえて今後も指導していかなければならない。

5 思いやりをもって人と接するように心がけている。

文章表現を変更したため単純に比較はできないが、保護者、生徒ともにほぼ昨年度と同じ結果である。保護者も学校の指導をおおむね評価している。教職員のA評価が保護者、生徒よりも低いのは、程度の差はあれ、軽はずみな言動で相手の心を傷つける生徒の実態があったことを踏まえた厳しい評価になったためと考えられる。思いやりを持ち、相手を尊重して人と接するという点については道徳の授業

6 生命を大切にするようにしている。

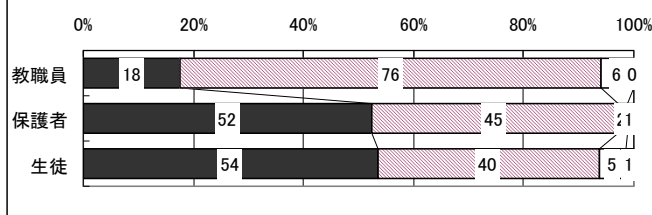


について深く考える機会を設けた。このことが高い評価につながっていると思われる。今後も、命の大切さを実感する場を多くもてるように、継続して指導していきたい。

6 生命を大切にするようにしている。

命の大切さを考え、命を尊重する態度を育てることは、いじめの防止や、人権意識を高め、相手の人権を尊重する態度の育成に深くかかわってくるものである。道徳の授業でも、この評価項目に関連する内容を指導しているが、今年度は新たに、講師を招いての「命の大切さを学ぶ授業」を実施した。また、命にかかわり、全校上げて「人権作文」を書いて、人権

7 いじめは許さないようにしている。



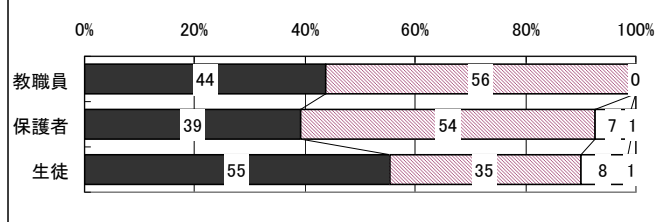
施し、いじめが疑われる回答に関しては、早期に教育相談を行い、早期発見・早期解決に努め、いじめを見逃さない指導を徹底している。今後もアンケートに加え教職員のアンテナを高くするとともに、道徳の時間を充実させて心を育て、積極的な生徒指導を進めていきたい。

7 いじめは許さないようにしている。

昨年度との比較では、教職員 3. 2 → 3. 1、保護者 3. 1 → 3. 5、生徒 3. 2 → 3. 5 と、教職員は若干下がったが、他は大きく上がった結果である。

いじめによる中学生の自殺という痛ましい事故がマスコミで多く報道されている。このような形で尊い命が失われることがあってはならない。今年度、生徒は毎月、保護者は隔月でいじめアンケートを実

8 楽しく学校生活を送っている。



続している。休みがちな生徒には、人間関係づくりが苦手であったり、周りを気にし過ぎたりする傾向がある。担任を中心に学年主任、養護教諭のサポート体制を継続しながら、今後も互いを認め、賞賛しあえる学級風土を作り、楽しく学校生活が送られるようにしていきたい。

8 楽しく学校生活を送っている。

新規不登校生徒出現ゼロを維持し、新たな不登校生徒、不登校傾向生徒を生み出さない上で大変重要であるととらえる。

本校では今年度、新たな不登校生徒の出現は見られていない。昨年度欠席が多かった生徒が不登校に陥ることなく、今年度も継続して登校している。休みがちな生徒についても、学年や養護教諭の働きかけによって、教室には行けなくても保健室登校を継続している。

<今後の改善策>

基本的な生活習慣が乱れると、学校生活における様々な面で崩れることにつながる。生徒会と共に「身につけたい3つの習慣」を継続して掲げ、教職員の指導とともに、生徒会を中心とした生徒自身からの意識を向上させ、実践していく。

思いやりの心をはぐくむ一番の基本は道徳教育ととらえ、「特別な教科道徳」を先行実施するとともに、ソフト面を充実させ、道徳教育の充実を図る。また、学級を始めとした学校生活の基盤において人間的な温かい人間関係を構築できるようにする。

道徳教育や性教育で命の大切さを実感させるとともに、今年度同様、命の大切さを実感できる機会を設ける。また、生命尊重といじめの未然防止、人権意識を関連させ、多面的に学ぶことができるようにする。

今後も継続して生徒の変化を見逃さず、常にアンテナを高くして早期発見・早期対応・早期解決を図ることができるよう努めていく。また、道徳教育を充実させ、生徒の内面に訴える指導を継続して行う。

学級担任を中心に学年教員や教科担任、養護教諭、スクールカウンセラー等が連携して安心できる環境作りを意識していきたい。また、家庭と学校が連携し、生徒が楽しいと思える学校、保護者が安心して通学させられる学校をめざした学級経営、学校経営に努めていく。

○ 今月の言葉 ○

「子どもは批判されて育つと、人を責めることを学びます。」
 「子どもは憎しみのなかで育つと、人と争うことを学びます。」
 「子どもは恐怖のなかで育つと、おどおどした小心者になります。」
 「子どもは憐れみを受けて育つと、自分をかわいそうだとおもうようになります。」

「子どもはばかにされて育つと、自分を表現できなくなります。」

「子どもは嫉妬のなかで育つと、人をねたむようになります。」

「子どもはひきめを感じて育つと、罪悪感を持つようになります。」

「子どもは辛抱強さを見て育つと、耐えることを学びます。」

「子どもは正直さと公平さを見て育つと、真実と正義を学びます。」

「子どもは励まされて育つと、自信を持つようになります。」

「子どもはほめられて育つと、人に感謝するようになります。」

「子どもは存在を認められて育つと、自分が好きになります。」

「子どもは皆で分け合うのを見て育つと、人に分け与えるようになります。」

「子どもは努力を認められて育つと、目標を持つようになります。」

「子どもは静かな落ち着いた着きのあるなかで育つと、平和な心をもつようになります。」

「子どもは安心感を与えられて育つと、自分や人を信じるようになります。」

「子どもは親しみに満ちた雰囲気の中で育つと、生きることには楽しいことだと知ります。」

「子どもは周りから受け入れられて育つと、世界中に愛があふれていることを知ります。」

「子どもは死んだ時、自分は泣いて、周りのすべての人が泣いている。そういう人間になりなさい。」

「アメリカインディアン」を引用

学校の教職員や保護者の皆さま、そして近所の方々、思いやる心を育てるならば、さまざまな人に対して「思いやる心」を持って接することがとても大切であるということです。